



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ココカラファイン
コード番号 3098 URL <http://www.cocokarafine.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 塚本 厚志

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 千田 吉裕

TEL 045-548-5957

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|---------|------|-------|------|-------|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 23年3月期第3四半期 | 180,754 | 23.5 | 3,958 | 24.4 | 6,879 | 15.6 | 4,685 | 32.8 |
| 22年3月期第3四半期 | 146,397 | 16.6 | 3,181 | △5.5 | 5,951 | 0.9 | 3,527 | 6.9 |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年3月期第3四半期 | 215.73 | — |
| 22年3月期第3四半期 | 177.13 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|---------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 23年3月期第3四半期 | 124,174 | 59,388 | 47.8 | 2,336.29 |
| 22年3月期 | 79,679 | 45,997 | 57.7 | 2,309.76 |

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 59,388百万円 22年3月期 45,997百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|----------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 22年3月期 | — | — | — | 50.00 | 50.00 |
| 23年3月期 | — | 33.00 | — | — | — |
| 23年3月期 (予想) | — | — | — | 25.00 | 58.00 |

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|---------|------|-------|------|-------|------|-------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 255,320 | 33.7 | 4,330 | 27.6 | 8,450 | 19.5 | 5,120 | 22.8 | 218.76 |

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

平成22年12月10日に「負ののれん確定に伴う業績予想の一部修正に関するお知らせ」にて業績修正を行っております。

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名

）、除外 一社（社名

）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 25,472,485株 22年3月期 19,922,156株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 52,450株 22年3月期 7,748株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 21,719,260株 22年3月期3Q 19,914,714株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 3 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 4 |
| 2. その他の情報 | 4 |
| (1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 | 4 |
| (2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 | 5 |
| (3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書 | 8 |
| 【第3四半期連結累計期間】 | 8 |
| 【第3四半期連結会計期間】 | 9 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 10 |
| (4) 継続企業の前提に関する注記 | 11 |
| (5) セグメント情報 | 11 |
| (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 12 |

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年12月31日）におけるわが国の経済は、好調な新興国経済の効果を背景に一部で景気回復の動きは見られるものの、急激な円高や、雇用情勢の悪化等の先行き不透明感から、消費者の生活防衛意識は依然として高く、購買意欲の回復には至っておりません。当社の属するドラッグストア業界におきましては、業態間競争が本格化し、M&Aや資本・業務提携等の業界再編が加速する中、生き残りのため企業独自の差異化戦略が必要不可欠となっております。

このような状況下、当社は業態間競争に勝ち抜く経営基盤確立のため、平成22年10月1日付で株式会社アライドハーツ・ホールディングスと合併し、社名を株式会社ココカラファインと変更するとともに企業規模に対応した新体制をスタートし、コーポレートガバナンスの強化を致しました。新体制のもと、「おもてなしNo.1企業になる」ことをコーポレートスローガンとし、業界内での差異化戦略を推進してまいります。

①ドラッグ・調剤事業

(概要)

株式会社アライドハーツ・ホールディングスとの合併により拡大した事業規模によるシナジーを最大化するための体制整備を行うとともに既存事業の質的強化を図り、競争力の強化を行ってまいりました。

事業業績といたしましては、猛暑により順調に推移した夏物商材や依然として好調な調剤事業等の効果はあったものの、前期における新型インフルエンザ関連特需（マスク等のニーズ拡大）の反動が大きく、当第3四半期累計期間の既存店売上高増収率は、1.8%減となりました。合併等による増収効果やコストの最適化施策により、売上高は、前年同期比23.2%増の155,519百万円、営業利益は、前年同期比20.6%増の5,039百万円となりました。

(出退店状況)

出退店につきましては、新規に57店舗を出店（株式会社いわいからの譲受店舗24店舗含む）、19店舗の退店を行い、また株式会社アライドハーツ・ホールディングスとの合併により株式会社ジップドラッグと株式会社ライフオートの382店舗を加えた結果、当連結会計年度末の当社グループ店舗数は、以下のとおり1,081店舗となりました。

(単位：店)

| | | 関東・甲信越 | 東海 | 関西 | 中国 | 四国 | 九州・沖縄 | 全国計 | (内調剤取扱) |
|-----------------|----|--------|-----|-----|----|----|-------|-------|---------|
| 株式会社 セイジョー | 期首 | 256 | 27 | 0 | 0 | 0 | 0 | 283 | (51) |
| | 出店 | 33 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 36 | (11) |
| | 閉店 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | (2) |
| | 期末 | 282 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 | 311 | (60) |
| セガミメディクス株式会社 | 期首 | 66 | 10 | 132 | 57 | 20 | 93 | 378 | (66) |
| | 出店 | 1 | 0 | 5 | 1 | 1 | 2 | 10 | (2) |
| | 閉店 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | 9 | (1) |
| | 期末 | 63 | 10 | 135 | 58 | 21 | 92 | 379 | (67) |
| 株式会社 ジップドラッグ | 期首 | 0 | 170 | 44 | 0 | 0 | 0 | 214 | (51) |
| | 出店 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | (1) |
| | 閉店 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | (0) |
| | 期末 | 0 | 171 | 46 | 0 | 0 | 0 | 217 | (52) |
| 株式会社 ライフオート | 期首 | 6 | 0 | 147 | 15 | 0 | 0 | 168 | (31) |
| | 出店 | 0 | 0 | 7 | 1 | 0 | 0 | 8 | (0) |
| | 閉店 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | (1) |
| | 期末 | 6 | 0 | 152 | 16 | 0 | 0 | 174 | (30) |
| 当社グループ計 | 期首 | 328 | 207 | 323 | 72 | 20 | 93 | 1,043 | (199) |
| | 出店 | 34 | 4 | 14 | 2 | 1 | 2 | 57 | (14) |
| | 閉店 | 11 | 1 | 4 | 0 | 0 | 3 | 19 | (4) |
| | 期末 | 351 | 210 | 333 | 74 | 21 | 92 | 1,081 | (209) |

(注) 株式会社ジップドラッグおよび株式会社ライフオートの期首店舗数は、平成22年10月1日現在の店舗数を記載しております。

(商品販売状況)

医薬品につきましては、一般用医薬品（大衆薬）の不振を調剤事業の好調によりカバーし、売上高は48,112百万円（前年同期比21.8%増）となりました。化粧品につきましては、消費低迷による影響もありましたが、夏物商材の好調などによりカバーすることができ、47,592百万円（同18.7%増）となりました。健康食品・日用生活商品につきましては、それぞれ6,608百万円（同14.1%増）、29,369百万円（同31.8%増）となり、その他につきましては、主に前期におけるマスク等新型インフルエンザ関連特需の反動がありましたが合併の増収効果が寄与した結果、23,835百万円（同28.2%増）となりました。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) | | | 当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | | |
|--------|--|------------|--------------------|--|------------|--------------------|
| | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 前年同 四半期比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 前年同 四半期比 (%) |
| 医薬品 | 39,486 | 31.3 | 3.9 | 48,112 | 30.9 | 21.8 |
| うち調剤 | 14,317 | 11.3 | 11.6 | 18,483 | 11.9 | 29.1 |
| 化粧品 | 40,102 | 31.8 | 0.9 | 47,592 | 30.6 | 18.7 |
| 健康食品 | 5,792 | 4.6 | 2.9 | 6,608 | 4.3 | 14.1 |
| 日用生活商品 | 22,285 | 17.6 | 7.2 | 29,369 | 18.9 | 31.8 |
| その他 | 18,586 | 14.7 | 18.0 | 23,835 | 15.3 | 28.2 |
| 全店計 | 126,253 | 100.0 | 5.2 | 155,519 | 100.0 | 23.2 |
| 卸・介護他 | 20,144 | - | 257.8 | 25,234 | - | 25.3 |
| 全社計 | 146,397 | - | 16.6 | 180,754 | - | 23.5 |

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
2. その他商品の主な内容は、医療用具・ベビー用品・食品などであります。
3. 卸・介護は、店舗（ドラッグストア・調剤薬局等）以外の売上高を全て含みます。
4. 構成比（%）は、それぞれ全店計の金額に対する割合を記載しております。

②卸売事業

エリア戦略推進、卸売事業を拡大したことにより、売上高は、前年同期比24.8%増の24,349百万円となりましたが、営業利益は、前年同期比5.0%減の226百万円となりました。

③介護事業

営業体制の強化とコア事業であるドラッグ・調剤との連携強化に重点を置き収益改善に取り組んでおります。平成21年9月に取得したタカラケア株式会社の収益も寄与した結果、売上高は、前年同期比38.3%増の884百万円、営業損失は、前年同期比15.6%減の90百万円となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高180,754百万円（前年同期比23.5%増）、営業利益3,958百万円（同24.4%増）、経常利益6,879百万円（同15.6%増）、四半期純利益4,685百万円（同32.8%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当社は、平成22年10月1日付で株式会社アライドハーツ・ホールディングスを吸収合併いたしました。このため、以下の増減内容につきましては、主にこの要因によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、124,174百万円となり、前連結会計年度末に比べて44,494百万円増加いたしました。流動資産は69,110百万円となり、前連結会計年度末に比べて25,598百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金が2,460百万円、売掛金が5,137百万円、たな卸資産が14,716百万円増加したことによるものであります。固定資産は55,064百万円となり、前連結会計年度末に比べて18,896百万円増加いたしました。主な要因は、有形固定資産が9,252百万円、無形固定資産が900百万円、投資その他の資産が8,743百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、64,785百万円となり、前連結会計年度末に比べて31,103百万円増加いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金が21,166百万円、短期借入金が5,373百万円、未払法人税等が647百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、59,388百万円となり、前連結会計年度末に比べて13,390百万円増加いたしました。自己資本比率につきましては、前連結会計年度末に比べて9.9ポイント低下して47.8%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、各キャッシュ・フローの状況に、合併に伴う資金の増加額、新規連結に伴う資金の増加額を含めた結果、前連結会計年度末に比較して2,470百万円増加し、12,624百万円となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、6,293百万円（前年同期比1,403百万円の収入増）となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益が6,829百万円に対して、主な増加要因として非資金費用である減価償却費及びその他の償却費の計上が1,832百万円、仕入債務の増加5,720百万円があったものの、減少要因として、売上債権の増加3,455百万円、たな卸資産の増加1,561百万円、負ののれん発生益1,123百万円、法人税等の支払額2,080百万円があったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用された資金は、3,108百万円（前年同期比1,113百万円の支出増）となりました。これは主として新規出店等による有形固定資産の取得による支出1,717百万円、貸付けによる支出610百万円、敷金及び保証金の差入による支出845百万円があったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用された資金は、2,938百万円（前年同期比462百万円の支出増）となりました。これは主として、短期借入金の純増額1,535百万円があったものの、長期借入金の返済による支出2,235百万円、社債償還による支出300百万円、配当金の支払額1,612百万円があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年12月10日に「負ののれん確定に伴う業績予想の一部修正に関するお知らせ」にて業績修正を行っております。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、見積実効税率を使用できない場合には、税引前四半期純利益に法定実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

1. 会計処理基準に関する事項の変更

①「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

なお、建物等の賃貸借契約に係る原状回復義務（事業用定期借地契約に係るものを除く）については、資産計上された敷金等のうち回収が見込めない金額を合理的に見積り、そのうち当四半期に帰属する金額を費用計上する方法によっております。

これにより、営業利益及び経常利益は、それぞれ123百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は、724百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は125百万円であります。

②「企業結合に関する会計基準」等の適用

第2四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）、「『研究開発費等に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第23号 平成20年12月26日）、「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成20年12月26日）、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）を適用しております。

③株式会社セイジョー商品（調剤薬品除く）評価方法変更について

従来、連結子会社である株式会社セイジョーの商品（調剤薬品は除く）の評価方法は売価還元法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間から総平均法に変更しております。この変更は、セガミメディクス株式会社との経営統合を契機に行った在庫管理システムの見直しが完了し、品目単位ごとの在庫管理が可能になったことから、より適正な期間損益計算の実施と連結会社間の会計処理方針の統一を目的として行なったものであります。

この結果、従来の方法によった場合に比べて、売上総利益、営業利益及び経常利益が69百万円減少し、税金等調整前四半期純利益が110百万円減少しております。なお、期首のたな卸資産の評価方法の変更に伴う差額41百万円は、特別損失「その他」に含めて計上しております。

2. 表示方法の変更

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結会計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「発注処理手数料」は、重要性が増加したため、当第3四半期連結会計期間では区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結会計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「発注処理手数料」は、172百万円であります。

前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「賃貸費用」は、重要性が増加したため、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間では区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「賃貸費用」は、39百万円及び14百万円であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」含めて表示しておりました「貸付けによる支出」は重要性が増加したため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結累計期間の「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「貸付けによる支出」は25百万円であります。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日) |
|-------------|--------------------------------|--|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 11,847 | 9,387 |
| 売掛金 | 12,852 | 7,714 |
| 有価証券 | 800 | 800 |
| たな卸資産 | 34,994 | 20,278 |
| その他 | 8,619 | 5,335 |
| 貸倒引当金 | △3 | △4 |
| 流動資産合計 | 69,110 | 43,511 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 12,503 | 7,001 |
| 土地 | 11,008 | 9,175 |
| その他(純額) | 3,678 | 1,760 |
| 有形固定資産合計 | 27,190 | 17,937 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 788 | 451 |
| その他 | 1,424 | 861 |
| 無形固定資産合計 | 2,213 | 1,313 |
| 投資その他の資産 | | |
| 敷金及び保証金 | 20,345 | 13,729 |
| その他 | 5,595 | 3,405 |
| 貸倒引当金 | △281 | △218 |
| 投資その他の資産合計 | 25,660 | 16,916 |
| 固定資産合計 | 55,064 | 36,167 |
| 資産合計 | 124,174 | 79,679 |

(単位：百万円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日) |
|---------------|--------------------------------|--|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 41,040 | 19,874 |
| 短期借入金 | 6,473 | 1,100 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 370 | — |
| 未払法人税等 | 1,185 | 537 |
| 賞与引当金 | 756 | 850 |
| ポイント引当金 | 1,213 | 856 |
| その他 | 6,300 | 3,346 |
| 流動負債合計 | 57,339 | 26,565 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 142 | — |
| 退職給付引当金 | 2,379 | 2,412 |
| 負ののれん | 2,625 | 3,501 |
| その他 | 2,298 | 1,202 |
| 固定負債合計 | 7,446 | 7,116 |
| 負債合計 | 64,785 | 33,681 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,000 | 1,000 |
| 資本剰余金 | 34,419 | 23,985 |
| 利益剰余金 | 23,991 | 20,959 |
| 自己株式 | △91 | △14 |
| 株主資本合計 | 59,320 | 45,930 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 68 | 67 |
| 評価・換算差額等合計 | 68 | 67 |
| 純資産合計 | 59,388 | 45,997 |
| 負債純資産合計 | 124,174 | 79,679 |

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 146,397 | 180,754 |
| 売上原価 | 109,899 | 136,792 |
| 売上総利益 | 36,497 | 43,961 |
| 販売費及び一般管理費 | 33,316 | 40,003 |
| 営業利益 | 3,181 | 3,958 |
| 営業外収益 | | |
| 負ののれん償却額 | 875 | 875 |
| 仕入割引 | 609 | 634 |
| その他 | 1,413 | 1,580 |
| 営業外収益合計 | 2,898 | 3,090 |
| 営業外費用 | | |
| 賃貸費用 | — | 60 |
| その他 | 127 | 108 |
| 営業外費用合計 | 127 | 169 |
| 経常利益 | 5,951 | 6,879 |
| 特別利益 | | |
| 負ののれん発生益 | — | 1,123 |
| その他 | 1 | 26 |
| 特別利益合計 | 1 | 1,150 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 46 | 64 |
| 店舗閉鎖損失 | 38 | — |
| 賃貸借契約解約損 | 41 | 82 |
| ゴルフ会員権評価損 | 13 | 0 |
| 減損損失 | 284 | 346 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | — | 647 |
| その他 | 10 | 59 |
| 特別損失合計 | 433 | 1,199 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 5,519 | 6,829 |
| 法人税等 | 1,992 | 2,144 |
| 四半期純利益 | 3,527 | 4,685 |

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 49,162 | 80,576 |
| 売上原価 | 36,710 | 61,042 |
| 売上総利益 | 12,451 | 19,533 |
| 販売費及び一般管理費 | 11,157 | 17,332 |
| 営業利益 | 1,293 | 2,201 |
| 営業外収益 | | |
| 負ののれん償却額 | 291 | 291 |
| 仕入割引 | 209 | 220 |
| 発注処理手数料 | — | 278 |
| その他 | 442 | 353 |
| 営業外収益合計 | 943 | 1,144 |
| 営業外費用 | | |
| 賃貸費用 | — | 34 |
| その他 | 45 | 64 |
| 営業外費用合計 | 45 | 98 |
| 経常利益 | 2,191 | 3,247 |
| 特別利益 | | |
| 負ののれん発生益 | — | 1,123 |
| その他 | 1 | 73 |
| 特別利益合計 | 1 | 1,196 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 10 | 11 |
| 店舗閉鎖損失 | 25 | — |
| 賃貸借契約解約損 | 9 | 11 |
| 減損損失 | 159 | 10 |
| その他 | 10 | 14 |
| 特別損失合計 | 215 | 48 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,977 | 4,395 |
| 法人税等 | 707 | 1,327 |
| 四半期純利益 | 1,269 | 3,068 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 5,519 | 6,829 |
| 減価償却費及びその他の償却費 | 1,521 | 1,832 |
| 減損損失 | 284 | 346 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | — | 647 |
| のれん及び負ののれん償却額 | △812 | △772 |
| 負ののれん発生益 | — | △1,123 |
| 引当金の増減額 (△は減少) | △202 | △694 |
| 受取利息及び受取配当金 | △41 | △53 |
| 支払利息 | 11 | 25 |
| 固定資産受贈益 | △100 | △80 |
| 固定資産除却損 | 46 | 60 |
| 店舗閉鎖損失及び賃貸借契約解約損 | 79 | 82 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △440 | △3,455 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △667 | △1,561 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | 2,623 | 5,720 |
| その他 | 361 | 581 |
| 小計 | 8,183 | 8,385 |
| 利息及び配当金の受取額 | 11 | 13 |
| 利息の支払額 | △10 | △24 |
| 法人税等の支払額 | △3,294 | △2,080 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 4,889 | 6,293 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △23 | △33 |
| 定期預金の払戻による収入 | 23 | 33 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △257 | △39 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △1,014 | △1,717 |
| 貸付けによる支出 | — | △610 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △667 | △845 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 258 | 309 |
| その他 | △312 | △203 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,994 | △3,108 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の増減額 (△は減少) | △1,400 | 1,535 |
| 長期借入金の返済による支出 | — | △2,235 |
| 社債の償還による支出 | △20 | △300 |
| 配当金の支払額 | △995 | △1,612 |
| その他 | △60 | △326 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △2,476 | △2,938 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 418 | 246 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 10,707 | 10,153 |
| 合併に伴う現金及び現金同等物の増加額 | — | 1,446 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | — | 777 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 11,126 | 12,624 |

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

| | ドラッグ・ 調剤事業 (百万円) | 卸売事業 (百万円) | 介護事業 (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は 全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|-------------------------------|------------------------|---------------|---------------|------------|---------------------|-------------|
| 売上高 | | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する 売上高 | 126,253 | 19,504 | 639 | 146,397 | — | 146,397 |
| (2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 126,253 | 19,504 | 639 | 146,397 | — | 146,397 |
| 営業利益 (又は営業損失) | 4,178 | 238 | △107 | 4,309 | (1,128) | 3,181 |

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な事業内容

(1) ドラッグ・調剤事業……医薬品、化粧品、日用生活商品等の小売販売であります。

(2) 卸売事業……医薬品、化粧品、日用生活商品等の商品供給を行っております。

(3) 介護事業……介護施設の運営、訪問介護等を行っております。

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用(1,128百万円)の主なものは、本社の管理部門に係る費用であります。

4 従来、「ドラッグ・調剤事業」の売上高及び営業利益の金額が、全セグメントの売上高及び営業利益の合計額の90%を超えていたため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しておりましたが、「卸売事業」が順調に拡大し、その重要性が増加したことに伴い当第1四半期連結累計期間から事業の種類別セグメント情報を作成しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社グループは、事業会社別、事業区分別に内部管理を行っております。事業区分といたしましては、医薬品、化粧品、日用生活商品等の小売販売を行う「ドラッグ・調剤事業」、医薬品、化粧品、日用生活商品等の商品供給を行う「卸売事業」、介護施設の運営、訪問介護等を行う「介護事業」の3つの事業を展開しております。従って、「ドラッグ・調剤事業」、「卸売事業」、「介護事業」の3つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|---------------|--------|------|---------|------------|---------|
| | ドラッグ・ 調剤事業 | 卸売事業 | 介護事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 155,519 | 24,349 | 884 | 180,754 | — | 180,754 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 155,519 | 24,349 | 884 | 180,754 | — | 180,754 |
| セグメント利益(営業利益) | 5,039 | 226 | △90 | 5,175 | △1,217 | 3,958 |

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない管理部門に係る収益及び費用であります。

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|--------|
| 報告セグメント計 | 5,175 |
| 全社費用(注) | △1,217 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 3,958 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結会計期間(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

(重要な負ののれん発生益)

「ドラッグ・調剤事業」において株式会社アライドハーツ・ホールディングスを吸収合併したことにより、負ののれんが発生しております。

なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結会計期間においては1,123百万円であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成22年10月1日付で、株式会社アライドハーツ・ホールディングスを吸収合併いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が10,434百万円増加し、当第3四半期連結累計期間末において、資本剰余金が34,419百万円となっております。